

子どもたちの夢に翼を スワプナ・マジウムダール (インド)

19歳のスニラ・ハズダは毎朝仕事に出かけるのですが、帰宅が何時になるのか、いつもわかりません。彼女は子どもたちの権利を守る「バル・バンドゥ」として活動しています。仕事中は、うっそうとした森林の中を移動し、険しい丘を渡り、そして蛇などの動物に遭遇した場合に備えなければなりません。彼女はインドのビハール州ジャムイー県にある、ナクサライト（左翼過激派）の影響を受ける人里離れたカハイラ地区のパンチャーヤト（インドの農村に古代からある伝統的な自治機関）で、村から村へと歩き渡ります。

彼女が生まれ育ったのは、サンタル族が主流派であるパンチャーヤトですが、道路が敷設されておらず、電気も通っていないために、時に不安を覚えます。しかしながら、小柄なスニラが確信していることが1つあります。それは、「彼女が所属している場」、すなわち学校に全ての子どもたちを連れて行くためなら、彼女は何でもするということです。

林務作業員の家に生まれたスニラは、勉強する上で、長く困難な道を歩んできました。そんなスニラは他の子どもたちに、自分と同じような目にあって欲しくないと考えています。彼女の両親は、まきを売って彼女の学費を稼ぎ、彼女の夢をかなえるために110キロも離れたホステルに彼女が滞在できるようにしました。「もし勉強していなければ、私も同じようにまきを売っていたでしょう。教育を受けたおかげで、私は仕事と自らのアイデンティティを手に入れたのです。」と彼女は言います。

サンタル族のコミュニティーで初めて11年生まで進んだ少女として有名なスニラは、そのことに誇りを感じています。また、コミュニティーの他の子どもたちが教育の権利を手に入れるための手助けをしたい、とも強く感じています。こうした熱意により、彼女はバル・バンドゥのプログラムにおける子どもたちのサポート役に選ばれました。

バル・バンドゥのプログラムは、首相官邸からの承認を経て、2010年12月に「子どもたちの保護のための国家委員会（NCPCR）」によって開始されました。このプログラムでは、バル・バンドゥ、すなわちコミュニティーから選出された、子どもたちを守る役割の人びとの助けを得て、社会不安のある地域で子どもたちの権利を保護することを目的としています。社会不安のある9つの州の10の地域で試験的に実施されている3年計画のプログラムです。

ビハール州では、紛争の影響を受けているジャムイー県が選ばれました。この地域では、カハイラ地区でプログラムが試験的に実施されています。

バル・バンドゥとして、スニラは自分のコミュニティーのモデルリーダーを務めています。これは、子どもたちの権利を支持するという責任を果たすために、コミュニティーをじっくりと着実に彼女が動かしているということに加え、コミュニティーの人びとを何とか説得して子どもたちを学校に通わせているからです。

かつては、保護者までもが、子どもたちを学校に通わせることは時間の無駄だと考えてい

ました。こうした保護者によると、子どもの教育促進に向けあらゆるサポートの提供にスニラが非常に前向きであると知り、仕方なく自分の意見を変えたとのこと。11歳になるソヌという少年の母親は、夫が亡くなった後ソヌを畑仕事に出していました。ソヌ自身は学校に行きたがっていたにもかかわらず、勉強するよりも働くほうが時間の有効活用になると母親は考えていました。

勉強したいというソヌの希望を知ったスニラは、より良い生活を送るチャンスをソヌが手にするには教育しかない、と母親を説得しました。また、新しい「教育の権利法」により、学校は義務教育で無料であり、ソヌが教育を受けるのに費用は一切かからない、という利点も伝えました。スニラのサポートがなければ、学校に通うのは自分の権利であることをソヌが知ることは決してなかったでしょう。

スニラが次世代のための未来のリーダーになっているのは、全ての不平等に勇気をもって戦うことができるからです。厳しい地形と不安定な環境のカハイラ地区は、数々の困難を抱えていました。ナクサライトの活動の影響を同様に受けているジャールカンド州と隣接する地域では、不安感が増しただけでした。バル・バンドゥのプログラムが開始される前、ジャムイー県では、ナクサライトや警察が関係する暴力事件が数件発生していました。

実際、2011年3月、この地域の中学校がナクサライトのターゲットになった際、中学校の生徒553名の生活は停止状態に陥りました。学校のほとんどの部分は、ナクサライトが設置した爆弾によって破壊されました。この爆弾は、学校の敷地内に中央予備警察部隊（CRPF）の大隊を設置するという、政府の動きを阻止しようとしたものでした。



ナクサライトによって破壊された学校
(ジャムイー県)

まったくもって正常とは言えないこのような状況の中で、恐怖を投げ捨てて子どもたちの権利の保護に加わるように人びとを動かすことは、とても困難な仕事です。住民と州政府の間でパートナーシップを構築し、政府組織の信頼を回復し、バル・バンドゥのプログラムの目的を達成するには、特別な努力と献身を必要としたのです。